

お告げのマリア修道会



まごころ会

発行：お告げの
マリア修道会
2022年3月
TEL095-846-8300

「わたしは主のはしたためです。

お言葉どおり、この身になりますように。」

灰の水曜日 3月2日(水)



4月17日の復活祭を目指して、40日間の四旬節が始まります。教会は、マタイ福音書に記されている通り回心のしるしとして「祈り・節制・愛の行い」を大切にしてきました。みことばに耳を傾け、祈り、隣人と分かち合い、善行をすることを通して、四旬節をキリストへの道として生きるように励ましています。四旬節はゆるしの時、兄弟姉妹との和解の時です。また、四旬節はイエスの十字架の意味を知り、味わう時期です。復活の栄光に達する喜びを胸に、私たちもそれぞれ自分の十字架を担います。



本部の敷地で一番初めに咲く梅の花です。20年振りに小江原の冬を過ぎました。友人が「小江原は長崎の北海道!？」と言いました。本当に寒かったです。春が近づきました!!

まごころ会会員帰天、お祈りください

- ・ヨハネ 中野 敏行 楠原教会
- ・トマ 中田 喜蔵 鯛の浦教会
- ・マリア 赤波江トシ子 赤波江教会
- ・マリア 田崎 ユキ 高井旅教会

支部修道院紹介 *出津修道院

お告げのマリア修道会において長い歴史を持つ出津修道院は、明治12年、パリ外国宣教会のド・ロ神父様によって設立されました。ド・ロ神父様は、当時「陸の孤島」と呼ばれていた外海地方のきわめて貧しい生活を目の当たりにして、生活を安定させるために農業指導、漁業指導など様々な事業を始めました。事業の一つとして女性のための授産施設「救助院」と同時に、女子修道会「聖ヨゼフ会」を創設し、学びのために横浜のサンモール会や浦上の十字会に派遣しました。

明治16年、救助院の建物が完成し、1階はソーマン、マカロニ、しょうゆ製造、染色工場として「聖ヨゼフの仕事場」と名づけられ、2階の40畳の大部屋は「聖ヨゼフ会」の住まいとなりました。日中は礼拝堂、糸紡ぎ、裁縫、編み物などの織物工場としても使用しました。また、信徒の宗教教育、教会奉仕のために7人の女性信徒が集められ、ド・ロ神父様の私財によって建てられた家で自給自足の共同生活を送りました。この共同体は、「上小田愛苦会」と呼ばれました。

ド・ロ神父様は、その後も製粉工場、診療所、イワシ網工場を建てました。明治19年にはイワシ網工場を廃止し、建物を利用して当時放任されていた幼児、少年、少女200名を収容して保育しました。これは日本で最初の保育事業であるといわれています。

昭和9年には、主任司祭の勧めで「聖ヨゼフ会」と「上小田愛苦会」は合併し、修道服を着用し、生活の規則を改めました。

その後も時代の要請に応じて、身寄りのない老人や病気の老人、戦争のために疎開してきた人々のお世話をしました。

昭和31年、聖婢姉妹会に統合され、昭和50年3月25日「お告げのマリア修道会・出津修道院」となりました。

旧出津救助院は、地域での必要な歴史と文化を語る施設として平成25年に保存修理を終えました。世界文化遺産「長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産」の構成遺産の一つとなっています。現在は、昭和45年に開設された養護老人ホーム聖マルコ園、出津愛児園、旧出津救助院、司祭館奉仕、留守を守ってくれる姉妹14人が共同生活を送っています。